

◇ 専門部会記録

令和5年度 両沼・耶麻中学校教育研究会 第一次研究協議会 記録

期日：令和5年7月 26 日（水 曜日） 会場：北塩原第一中学校

部会名	英語	部会	部会長名	耶麻：鈴木雅彦（北塩原中） 両沼：坂口 伸（高田中）
【研究主題】 社会や世界と向き合い、他者との関わりを大切にしながら、自分や場面、状況に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育て指導はどうあるべきか。 【副主題】 情報や自分の考えなどを形成・再構成し、伝え合うための指導過程の工夫				
指導助言者	会津教育事務所指導主事 木町 真 先生			
発表者	全員			
司会者	佐藤 健一（喜多方三中）			
記録者	江川 けさ（高郷中）			

No.	参加者名	所属校	No.	参加者名	所属校
1	清野 博史	塩川中	10	内海 淳	西会津中
2	新田 司	山部中	11	佐藤 健一	喜多方三中
3	笹川 淳子	喜多方第一中	12	鈴木雅彦	北塩原一中
4	田中 大	裏磐梯中	13		
5	小田切 緑子	北塩原一中	14		
6	加藤 佳子	喜多方第二中	15		
7	佐藤 法子	〃	16		
8	中 邦章	昭和	17		
9	江川 けさ	高郷中	18		

研究協議 (現状や取組紹介)

・山都中...基礎・基本の定着に向けての取組紹介、書くのに時間のかかる英単60を活用して書くテスト。話すことにも課題がある。Small Talkで"えんぴん"を書かせ、30秒/会話系統の交代(1年6人 30秒/単文でくり返すこと)系統づらくなるようになってきた。Key Sentence・基本文を覚えることで応用につながる。

・高根中...話すことには自信があるが、書くことを苦手としている生徒が多い。昨紹介4月の後、1学期の終わりの時期(=疑問)でも入中からテストも兼ねて行った。

・喜多方中...1) 単文時間の中で「見た、考え方をふくらませる」^(内容をふくらませる) 現状だが、単文見通しの中でやっていた。* Let's find the news. 国の最初の授業でとりあげる。やりとりの経験を増やしている。「ACTの先生の母とオカリビンの中学生にメールを送ろう」。* 指導書と6年間の一歩目について、Cになりそうな生徒に対しての働きかけにより 指導書6年間の一歩目につながる。IL-ブリック(3段階)を活用し、蓄積していくことが大切である。

・坂下中...1年生の教科書の内容がモリタにさん。話すことはスラスラだが、書くことに課題がある。読ませながら書くなどシナリオ63%が(嫌い)と答えている。即習事項の確認(Criss-Crossなど)、前時の振り返り入れている。Enjoy Communication意欲的に取組む。場面・状況・設定(公開授業に来校した外国人へ案内する設定) Your Turnやワークシートを活用して書く時間を確保している。

・高田中...1年生、1学期、文法がわからなくなっているので混乱している状況がある。書くことができない。単語の量が多すぎる。単語の数も5つずつ限定して実施して、音読練習も取り入れたりしながら書くかにつながっている。ACT週3回来校 ACTと協力して Speaking Test 実施。話すこと意欲的な姿を生かして行っている。

・喜み方ニ中〜 Enjoy Communication 小中学校で「やった内容」なので「スラス」

1週間34ページ、1クラス25名、20名近くノート提出率は高い。コメントを必ず

添える。3シートワズ、グループで協力してヒントを出し合うことで「英語を果して使わね

聞」ことばでできる。6分ことばでできるが書けない。7分5秒には表紙飾りなど。

モチベーションが上がるように工夫している。

Small Talkについて、最近のニュースで（タブレット見せながら）「Do you know this?」と問いかけるなどして。

学校紹介の動画を作成。目的が「おもしろい」ので、意欲的に耳を傾けた。

実際に送るという目的がある。

実態を把握するための予備テストの実施。書くことの訓練は必要。

ノートの活用について。ノートの指導のあり方 家庭学習につなげる。

2学年 ... 各場面での振り返りを耳に入れたことで「自分、考え方を形成する。

りや着から、6平面を耳に入れたことで「自信をもったり、自分の活動
を振り返りよりよい活動につなげる。

3学年 ... 情報収集

タブレット活用、翻訳機能などについて、うまく活用していく。

単元を通じた取り組み、単元を貫いた取り組み。

こまめに書く。

他者意識させる取り組み ZoomでALTの出身国と

デジタル教科書なども活用

2分30秒、
やりとり。

使いながら新しい表現を身につけていく。

1. 情事反や自分の考えなどの形成・再構築

- 「手が出させてやるのが大事。示す必要ない。」
- 「学びが深まり、さらに自分ごとのように受け、たどり着く自分自身がある。学びの有用感を認識することによってできるようになる。」
- 「目標に向けて、一度形成した情事反や、自分の考えなどを言語面と内容面からフィードバックしていく学びが大切である。」

2. 教科書の有効活用 → 形成・再構築になる

- 「単元を貫く問い (Point of View 2・3年生) 11事例を出してやる。」
- 「例」 How do we build good relations ... with foreign countries?
- 「単元を通じて 記録・蓄積・共有」
- 「例」 Jamboard 自分の二枚での蓄積、共有で友達が使っている表現も使える。
- ① 考えか、意識がどう変化したか。
- ② 表現がどう向上したか。

デジタル教科書の活用 → 習熟度に応じた個別学習。

3. 指導の個別化・学習の個性化

- 「生徒に学び方を教え、生徒に学びを預ける。」
- 「学習の目的と時間と理解をさせて、それぞれの生徒の理解進度やペースに合った学びに自ら参加させる。」
- 「手立てを生徒自身に決めさせる。」
- 「どの生徒にも同じ「到達点」を達成するためにICTを活用する。」

研究主題 「社会や世界と向き合い、他者との関りを大切にしながら目的や場面、状況に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導は、どうあればよいか。」

副主題 「情報や自分の考えなどを形成・再構築し、伝え合うための指導の工夫」

1 研究主題の捉え方

本支部には①生徒たち自身の視野が狭く、外国に対する興味関心が薄い、②主体的な学習態度がなかなか育たない。③基礎的・基本的事項の習得の個人差が大きい、④「話す・書く」等の表現活動に必要以上に時間がかかる、などの課題がある。そのため、「目的や場面、状況等」を明確に設定することにより、生徒自らがそれらを理解し、十分考えた上で、英語で表現し伝え合う力の育成につながるものとする。

2 副主題のとらえ方

進んで情報を収集する姿勢を養うための興味深い題材の提供や、他に伝えたいような独創的な内容構成のあり方を練らせる働きかけなど、教師の情意面での関わりを改善する必要もある。また、急激に変化する世界情勢にも目を向けさせ、自分の意見を持つことができる話題の提供も不可欠である。さらに、得た情報を自分なりに解釈したり、他者への確に伝えたりするために必要とされる表現方法、その構成を支える語彙や用法などを段階的に習得させるための系統的な指導の展開を求めた研究を進めていかなければならない。また、ICTの効果的な活用を通じた情報発信能力も同時に養っていかなければならない資質と捉える。

3 授業実践

- ① タブレットを用いて写真を撮り、即興で俳句を詠む。
- ② 観光地についておすすめスポットをタブレットで調べ、紹介する。
- ③ 教師が日本や世界のニュースからトピックを選び、画像を見せながら新出文型や既習事項を用いて説明する。その後、内容について生徒に英語で質問する。
- ④ A) タブレットを用いて、Teamsで英文日記を書き、コメントを入れる。
B) ノート（ワークシート）に英文日記を書き、コメントを入れる。

4 成果と課題

＜実践事項の成果と課題＞

①3年のUnit 2でタブレットを用いて写真を撮り、即興で俳句を詠む活動を行った。タブレットで撮影した写真をもとに、総グループで即興で発表会を行った。また、各班の代表者数名はプロジェクターを用いて全体発表した。発表後はA4サイズの作品をワープロソフトで作成し、Teamsにて提出させた。

②2年生のUnit 1では、予定やshow等の第4文型の動詞、callを学習した。そこで、まとめの活動でシンガポールの観光地についてタブレットを用いて調べて、おすすめスポットを英語で紹介する活動を行った。教師側で準備した13カ所の観光地から一カ所選択し、班内でかぶらないように配慮した。定型のパターンを例示することで、作成を時短することができた。生徒たちは実際に行きたくなるような紹介文の作成を目指してよく取り組んだ。

③教師が日本や世界のニュースからトピックを選び、画像を見せながら新出文型や既習事項を用いて説明する。その後、内容について生徒に英語で質問する活動を行っている。リアルタイムな時事ニュースだけでなく、面白いニュースや学習している単元の国の話題など様々なジャンルを取り入れている。英語はもちろん、難しい話題は日本語で補足することもあるが、興味関心を引きつけるだけでなく、世界情勢を知ることや、自分の意見を述べる良い機会となっているので今後も続けていきたい。今後はペアやグループで話をする時間を増やしたり、内容を充実させたい。

④書く活動では、2年生では2行日記+αを書くようにしている。過去系の復習だけでなく、未来のことや助動詞を指定して書かせている。ノートとタブレットの両方で実施したが、現在は積み重ねの確認のため、ノートのみとしている。

＜全体の成果と課題＞

昨年度は小学校から本格的に英語学習が始まっているため、年度当初で自己紹介において、すでに英語が苦手と言う生徒が多いことに驚いた。そこで、コミュニケーションのためのツールとして他者との意思の疎通をするために「伝える力」が大切であると指導してきた。ミスを恐れずに話し、何とか伝えようとする姿勢を育てたいと考え、音読や英問英答など活動の際のミスは流し、後に全体で振り返り、確認するようにしてきた成果から、「ミスしても良い」という雰囲気が生徒の言語活動を活発にし、失敗を恐れずに英語を使おうとするようになった。

生徒は全体的に英語が好きな生徒が多い。一方で、授業で満足してしまう生徒も少なくないため、家庭学習との効果的なリンクを今後さらに工夫して書く力を高めていく必要がある。

基本事項をしっかり理解させた上でインプットし、よりリアルな状況を設定し、アウトプットにつなげていきたい。即興性に関しては、自分と相手の二者間で完結するのではなく、聞いたこと、分かったことをさらに、第三者に伝えることを意識させながら活動に取り組ませていきたい。また、語彙力をつけさせ、タブレットも効果的に使用する方法も研究していきたい。

令和5年度 耶麻・両沼中教研1次研資料

西会津町立西会津中学校 内海 淳

研究主題 社会や世界と向き合い、他者との関わりを大切にしながら目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか。

副 主 題 情報や自分の考えなどを形成・再構築し、伝え合うための指導過程の工夫

1 単元名 Unit 3 『Animals on the Red List』（3年）

2 研究主題・副主題を達成させるための手立て

【手立て1】課題解決に向けて、図表と対応する英語（単語・文）を理解する。…イメージ同定

課題を項目ごとに分けることにより、箇条書きのようにポイントを絞って書くことができるようにする。

【手立て2】情報を収集・整理し、自分の意見や考えをまとめる。…推論

マウスプロを用いて情報を収集させ、絶滅危惧種の現状を理解させる。それについての自分の意見や考えを、例文を参考にしながら既習事項と結びつけて英文にすることができるようにする。

3 手立てとRS（リーディングスキル）とのかかわり ○RST 令和4年度中学2年生10月のRSTの結果

昨年度に実施したRSTの結果（箱ひげ図）を見ると、「推論」と「イメージ同定」の項目において平均値が-0.1を下回っており、RSの定着に課題がある。このことから、知識を用いて論理的に判断することや、文と図形などの非言語情報を対応させることが苦手な生徒が多いことがわかる。

今回の授業では、推論とイメージ同定に焦点を当て、既存の知識を用いながら新たな知識や情報を収集・整理させるとともに、Red Listに載っている絶滅危惧種に関心をもたせ、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。

<生徒が調べて作成したシート>

Red Listに登録されている動植物を調べ、英語で記事をまとめよう	
	Let's help <u>Spectacled Bears</u> Survive !
Name (名前)	"Spectacled Bears" are one of the endangered animals in northeastern south america.
Habitat (生息地)	they live in northeastern south america.
Population (個体数)	there are about 3000 in northeastern south america now.
Reason (理由)	They became endangered because of Poaching for fur and meat, development and destruction of forests.
Opinion (意見・考え)	I think it is important for us to reduce deforestation as much as possible.

Red Listに登録されている動植物を調べ、英語で記事をまとめよう	
	Let's help <u>Amur leopards</u> Survive !
Name (名前)	Amur leopards are one of the endangered animals in the world.
Habitat (生息地)	They live in the Russian Primorsky Territory and taiga forest.
Population (個体数)	There are about 30 in the world now.
Reason (理由)	They became endangered because of deforestation, forest fires and poaching.
Opinion (意見・考え)	We shouldn't deforest and poach.

4 本時の目標

(1) 本時のねらい

思・判・表

情報を収集し、英語でまとめることができる。

【観察・プリント】

主体的態度

絶滅危惧種に関心をもち、現状について理解しようとしている。【観察・プリント】

5. 学習過程

段 階	学習内容・活動	時間 時形	○指導上の留意点 ◎手立て (RS) ◆評価
課題 把握	1 前時の復習を行う。 ・Red List について ・何が掲載されているか	3 一斉	○ Red List の掲載内容の例を挙げる。 ・絶滅危惧種の動植物が登録されている ・具体例を提示する
	2 本時のめあてを確認する。 Red List に登録されている動植物を調べ、英語で記事をまとめよう。	2 一斉	○ めあてを説明し、本時の学習内容を理解させる。
	3 課題を把握する。 名前、生息地、個体数、絶滅危惧の主な原因を調べ、自分の意見や考えを書く。	3 一斉	○ まなびポケットの「スクールタクト」を用いて記入例を説明する。 ◎ 図表と対応する英語 (単語・文) を理解させる。【手立て1】
課題 解決	4 マウスプロを用いて検索し、Red List に登録されている動植物を調べる。	5 個別	○ 検索を絞れない場合は、調べやすいサイトをいくつか提示する。 ・「WWF JAPAN」 ・「いきものログ RDB 図鑑全リスト」 ・「動物図鑑 絶滅危惧種」など
	5 自分が興味・関心をもった動植物について、名前、生息地、個体数、絶滅危惧の主な原因を調べる。 ・ペアで協力して調べる (同じものを一緒に調べる) (分担して違うものを調べる) など	10 個別 ペア	○ 英語が苦手な生徒については、ペアと協力して同じものを一緒に調べるようアドバイスする。
	6 調べた内容を、項目ごとに英語でまとめる。 ・まなびポケット「スクールタクト」を利用する。 ・例を参考にしながら、調べた内容を英語でまとめる。	12 個別 ペア	○ 早くまとめ終わった生徒については、更に別の絶滅危惧種について調べてまとめるよう指示する。 ◆ 調べた内容を英語でまとめることができる。
ま と め	7 調べた動植物を守るために必要なことや自分の考えなどを、既習事項を用いて英語で書く。 ・まなびポケット「スクールタクト」を利用する。 ・It is ... for + to + 動詞の原形 ・We should / shouldn't ~ ・We must / mustn't ~ ・We have to ~ など	7 個別	◎ 既習事項の例文を提示し、自分の意見や考えを述べる表現を理解させる。【手立て2】 ◆ 自分の意見や考えを、既習事項を用いて英語で書こうとしている。
	8 他の生徒が調べてまとめた記事を読み、絶滅危惧種についての理解を深める。	7 一斉	○ 完成した記事をいくつか紹介する。 ・生徒発表 ・教師による紹介
	9 次時の内容把握。	1 一斉	○ 次時の学習内容を説明する。